

中学校国語教育 理論研修会 終了報告

テーマ	「後世に伝えたい、文学教材から読み解く平和の重要性」	
日時	平成30年9月14日(金)	
会場	石狩教育研修センター	
講師	村上 三寿 氏 (琉球大学 教授)	
参加者	12名	
研修会 の 様子		<p>講師の村上先生は北海道の地震被害を気遣ってくださりながら、「今回来道できたことがほんとうにうれしい」と言ってくれました。本来は日本語文法がご専門ですが、今回は中学2年生「字のない葉書」を取り上げながら「主体的・対話的・深い学びへとつながる授業」を通じていかに、子どもたちへ平和の大切さをつたえていくか、先生の熱意が伝わってくる研修会となりました。</p>
		<p>まずはじめに文学教材を学ぶことの重要性をお話頂きました。文学作品とは、言語によって作り出された芸術作品である。それぞれのストーリーにこめられた、人間の姿や、それを通して見えてくる社会の本質を読み取ることが大切である。頭の中に絵と形象を描きながら、読み進めていくことがポイントである、ということでした。</p>
		<p>実際に教材を読み進めていくまえに、指導過程と指導形態の違いや範読と朗読との違い、主観主義に陥らないために、場面ごとの読みを大切にすることなど、「どの子も分かる授業」のためには、私たちが当たり前前に意識していなければならないが、忙しさや様々な理由で見落としがちになっている事柄について、確認して頂きました。</p>
		<p>実際に『字のない葉書』を例にして、「立ち止まって生徒といっしょにみつめる」ことを大切に授業を展開していただきました。常に生徒が「楽しく力をつける」「どの子も分かる」学習活動が展開されていました。「授業で活用してみたい」「もう一度自分の授業を見つめ直してみたい」「もっと言葉に立ち止まっていこう」など、どの参加者も大切なことを確認できた様子でした。</p>